

授業改善等に関する報告書（2020 年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2020（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|----------------|-------|--|
| 特殊演習c | 諏訪 友亮 | <p>特殊演習C 受講生の皆さんへ</p> <p>前期お疲れさまでした。 コロナの混乱のなか授業がスタートし、なかなか事態を飲み込むことができない状況が続いたと思います。 それでも授業へ参加してくれ、まずは御礼申し上げます。 また、制限のある授業で申し訳なかったです。</p> <p>当初はオンデマンド授業で開講したのですが、途中からは双方向も織り交ぜました。 教員の相性もあるかと思うものの、自分としては双方向のほうが皆さんの反応をすぐに確認でき、オンデマンドよりも向いていることを確認できました。映画の映像も共有できる点も双方向は最適でした。</p> <p>授業内容については、概念的、思想的な内容が続き、これまでこうした授業を受けたことがなかった人には難しかったかもしれません。一方で、たとえ難しくても強い興味を持って取り組んでくれた人もいて感謝しています。ここからは授業結果についてフィードバックを行います。</p> <p>皆さんの期末ペーパーを拝見して一番気になった点は、パラグラフ・ライティングの出来でした。 1年の入門セミナー、2年のParagraph Writingで学んだことをぜひ思い出してほしいです。 パラグラフ冒頭はトピック・センテンスで始める、サポート文でそれを根拠づける。 この基本的な書き方が出来ていない人が多い？というのが率直な意見です。 4年生の人は卒論執筆の真っ最中でしょう。3年生の人は来年からゼミに進んで卒論を書き始めるでしょう。 どちらの学年の人にとっても、パラグラフ・ライティングは基本中の基本になります。 ぜひこの事を念頭に置いて取り組んでもらえたら嬉しいです。</p> <p>評価はシラバス通りリアクションペーパー、発表、期末ペーパーに基づき行いました。 コロナ対応ということもあり、特別に単位を認定した場合があります。</p> <p>後期も既に始まっていますが、この授業で学んだことを少しでも活かしてもらえればと願っています。</p> |
| 近代イギリス文学・文化演習e | 諏訪 友亮 | <p>近代イギリス文学・文化演習e 受講生の皆さんへ</p> <p>前期お疲れさまでした。 コロナの混乱のなか授業がスタートし、なかなか事態を飲み込むことができない状況が続いたでしょう。 それでも授業へ参加してくれ、まずは御礼申し上げます。 また、制限のある授業で申し訳なく思います。</p> <p>この授業は最初から最後までオンデマンドで行いました。 他の授業ではZoomの授業も織り交ぜたり、または全てZoomで行ったものもあります。</p> <p>その中で、やはりオンデマンドが一番授業運営としては難しく、Zoomによる双方向授業の良さに気づくことになりました。 最後までオンデマンドで通さず、途中で柔軟にZoomの授業に変更すればよかったと反省しています。</p> <p>昨年4年生の演習を実施した経験から、今年はこれくらいの難易度のものはクリアできるのではないかと考えたわけですが 図書館の利用なども制限されるなか、シェイマス・ヒーニーの詩を読み、英語の批評を参考にするのは難しかったのかなと思います。 ただし、僕としては、授業の運営方法は工夫しつつも、難易度はそれほど落とさずに済むようなやり方を模索していきたいです。</p> <p>それでは卒論の提出まで約2ヶ月、無事に提出できることを願っています。 適度に運動し、よく食べよく寝て、健康を維持しつつ執筆に勤しんでくれれば幸いです。</p> <p>諏訪</p> |

[2020（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|-----------------|--------|---|
| 多読演習 | 諏訪 友亮 | <p>多読演習 受講生の皆さんへ</p> <p>前期お疲れさまでした。 コロナの混乱のなか授業がスタートし、なかなか事態を飲み込むことができない状況が続いたと思います。 それでも授業へ参加してくれ、まずは御礼申し上げます。 また、制限のある授業で申し訳なく思います。</p> <p>この授業は全てオンデマンドで行いましたが、他の授業ではZoomによる授業なども織り交ぜました。 オンデマンドだけでは受講生とコミュニケーション不足になることもあり、その点ではZoomの授業も取り入れるべきだったかなと反省しています。</p> <p>多読という作業はとてもシンプルで、自分がかかる英語をただひたすら読めば良いというものです。 そうすることで、無意識のうちに文構造を把握する能力が身につきます。 細かい文法のことは説明できないけれど、何となく文章を読めば分かるというのが多読の効果です。</p> <p>一方でデメリットもあって、なかなか語彙力が身につかないという点が挙げられます。 これについては、多読とは違う読みのトレーニングである精読を通して、語彙を増やしていっていただければと思います。</p> <p>何でもそうかもしれませんが、やろうとしていることがある程度できるようになると楽しさも倍増します。 英語が読めるようになるには時間がかかりますが、注いだ努力が無駄にならないことは保証します。 何もせずにできるようになる睡眠学習みたいなことを求める人は多いかもしれませんが しかし、英語を読むということばかりは時間を重ねていくことでしか改善しないですよね・・・。 コツコツ読んでいく、時間をかける、まさに皆さんが多読でやっていたことです。 理想的には、英語の本やサイトの文章を物怖じせず読むようになる（部分的に分からなくても気にしない）、そうすればこの授業を受けた意味は十分あります。</p> <p>英語を読むことが嫌ではない、むしろ楽しい、そんな姿勢を今後の英語の関わりの中でも見せていただければ願っています。</p> <p>諏訪</p> |
| アメリカ文学・文化講義 a | 稲垣 伸一 | <p>多くの学生さんがコメントを寄せてくださり、画像や文章の資料に対するアプローチについて考えるきっかけになったことが読み取れました。このことを感じてくだされば、この授業の目的がかなり達成できたことになります。多くの学生さんが熱心に授業に取り組んでくださったと感じています。</p> |
| 英語圏の演劇 | 伊澤 高志 | <p>アンケートへのご回答、ありがとうございます。みなさんがきちんと授業に取り組んでくれたことがあらためてわかりました。やはり実際の舞台の映像をもっと観たかったという回答もあり、そのあたりはどうか工夫できればよかったのですが、申し訳ないです。もし来年度もオンラインで授業という事態になったら、どうかチャレンジしたいと思います。</p> |
| アメリカ文学・文化演習 g | 深瀬 有希子 | <p>コロナ禍にもかかわらず、参加者の皆さんの真摯な姿に、励まされました。近い日に、また皆さんとお目にかかれそうですように。後期も、この調子で（しかしくれぐれも無理なく）、大学生生活を過ごしてください。期待しています。</p> |
| イギリス文学・文化講義 c | 土屋 結城 | <p>物語絵画と呼ばれるジャンルの作品からヴィクトリア時代のイギリスにおける女性像や当時の社会についての理解を深めることを目的とした授業である。オンライン授業になったが、授業アンケートでは「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.67~4.94といった、例年より高いくらいの評価を得た。混乱の中始まった授業だったが、授業形態、内容に関して、一定の理解は得られたように思う。今後の改善点としては、オンライン授業での双方向性の確保が挙げられる。</p> |
| 現代イギリス文学・文化演習 e | 志渡岡 理恵 | <p>すべてオンデマンドで行った。回答率は4割くらいだったものの、授業の満足度5.0など高い評価で嬉しい。演習科目であるため、発表担当者の用意してくれたハンドアウトと、他の受講生が掲示板に投稿してくれたコメントが充実していた結果だと思う。初めてのオンライン授業で不安もあったが、受講生と一緒に頑張ることができて良い経験になった。</p> |

[2020（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|---------------------|--------|--|
| Paragraph Writing a | 志渡岡 理恵 | すべてオンデマンドで行った。8割近くの受講生が回答してくれて、満足度が4.6など高い評価で嬉しい。初めてのオンライン授業で、週2回のライティング授業は、受講生にとって負担の大きいものだったと思う。そんな中、毎回の授業と課題に真摯に取り組んでいる受講生の姿に、教員側も頑張らなければという思いを強くした。 |
| Paragraph Writing a | 金田 迪子 | 2020年度前期は全ての回をオンデマンド形式での資料配信の形で実施しましたが、受講者のみなさんに大変協力的に授業に参加していただき、とてもありがたいと思っています。大学閉鎖などの未曾有の状況の中、受講者のみなさん一人一人が前向きに学習に取り組んで下さらなければ、全てがオンデマンド配信での授業は成立しませんでした。平均値が4.5を下回っている授業スピードや、授業の分かりやすさ、専門的な関心につながるような授業内容については、今年度以降も課題として検討を続けていきます。上記の課題を解消し、次年度以降は総合満足度が4.5を上回ることを目標に改善を進めていきたいと思っています。オンライン授業の実施という大きな問題があり、毎時の課題へのフィードバックを十分に行えなかったことを大変心残りに思いますが、みなさんがご自身の興味関心に基づき、論理的・構造的な英語の文章を書く力をどんどん伸ばされていることを、大変頼もしく感じていました。自由記述で英語の文章を書く力が身についたとコメントをいただいた方には、大変ありがとうございます。 |
| Paragraph Writing a | 富塚 亮平 | 授業スピードやわかりやすさについては一定の評価が得られた一方で、オンライン中継での授業となったこともあり、「声が聞き取りやすかったか」という質問については否定的な意見が数多く寄せられました。率直な意見をありがとうございます。後期は別のクラス担当となりますが、自費負担で可能な範囲内で音質改善に取り組みたいと考えております。 |
| Paragraph Writing a | 猪熊 作巳 | 急きょ遠隔授業となり、手探りの中での授業でしたが、どの学生も各自の学習ペースに基づきながらよく努力してくれたと思います。 |
| Basic Grammar a | 村上 まどか | 登校出来ない苦境、慣れない状況にもかかわらず、みなよく付いてきて、好成绩を得ました。丁寧に教えてもらった等の好評も散見され、私としてもうれしく思います。 |
| Basic Grammar a | 細野 香里 | 急遽オンラインで授業を行うことになり、履修者の皆さんも対応するのが大変だったと思いますが、いただいた意見をもとに授業のやり方を修正・改善していきます。 |
| イギリス文学・文化演習 a | 大関 啓子 | アンケートに10名の方が答えてくださって、ありがとう。中世英文学の遠い過去の時代に、GTという作品を通じて、触れられたという感想は、うれしく拝見しました。ただ対面授業ができなかったため、例年のように、図書館の特殊資料にある中世写本の閲覧や、様々な資料に、直接触れてもらう体験ができず、映像で示すだけでは十分でなく、残念でした。またレポートの返還も、取りあえず数日で成績だけを返しておき、最後の授業（8/4）で、まとめて評価についての細かな注意を、丁寧に話したのですが、成績下位（評価C）の人ほど、受講していない人がいて、自分に必要な注意を知らずに、今後に活かせず、残念と思いました。 |
| 現代アメリカ文学・文化演習 e | 佐々木 真理 | 本年度はキャンパス閉鎖という大変な状況の中での、試行錯誤のスタートとなりましたが、学生の皆さんがよくついてくれたので本当に嬉しく思いました。スライド動画を最初はなかなか上手に作れなかったり、課題が難しすぎたりと、ご迷惑をおかけしましたが、最後まで皆さんががんばって取り組んでくれたことに感謝です。 |
| 卒論セミナー a | 稲垣 伸一 | この授業では卒業論文のアウトラインを完成作成することを目標にほぼ毎週個人面談を行ってきました。履修生全員が次回までの課題を消化してアウトラインの作成を進められたと思います。この調子で後期卒業論文の執筆に励んでほしいと思います。 |
| 卒論セミナー a | 諏訪 友亮 | 受講生の皆さんへ 日々、メールやメッセージングアプリでやり取りをしているため、ここでフィードバックすることは特にはないです。就活をしつつ卒論の構想を練るのは大変な作業だったと思います。お疲れさまでした。 卒論の提出まで約2ヶ月ですが、無事に提出できることを願うばかりです。不明な点はいつでも相談にのります。 諏訪 |
| 卒論セミナー a | 村上 まどか | この科目は答えにくいにもかかわらず、答えてくれた人どうもありがとう。 |

[2020（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|---------------|--------|---|
| | | <p>受講者の約半数の71名の方が、このアンケートに回答して下さい、ありがとうございます。</p> <p>各人の意見の中で、出席の取り方についてが、多かったですね。</p> <p>途中で気付いたことですが、誰かがG-driveで閲覧を確認したら、自分の閲覧記録が入っていなかった。それで不安になり、他の人にも伝わったようです。100人を超す方から、問い合わせがあり、それらの回答に苦心しました。即日すべてにお答えし、正しい出席を伝えました。そして皆さんには、G-driveの閲覧記録は、入り方によって異なり、記録されたりされなかったりする可能性があるの、参考にしないようにともお伝えしました。Manabaの閲覧記録は、日時に至るまで正確に記録されています。ただ学生からは、見られない。そこで問い合わせには、すべて即日応じました。対面授業の出席簿も、皆さんからは見られない、教員に質問して知ることはできません。個人的な連絡方法については、私のGmailアドレスを、初回から伝えてあります。</p> |
| イギリス文学史 a | 大関 啓子 | <p>次に、授業動画の時間の長さですが、皆さんの受信環境によって、長いものは見にくい人がいるので、注意がありました。そのため、できるだけ1本を短くし、必要な場合は、2本に分けて、作りました。2つを見なければならぬ手間をかけてしまいました。授業動画は短くても、そこで示された作品を読むなどの自習も必要です。それをしていない人は、レポートの成績もよかったです。</p> <p>最後に評価についてですが、レポートの成績を先にお返しして、その評価の詳細な注意を、最後の授業(8/4)で説明しました。ところが残念なことに、その注意を一番聞いてほしかった、レポート成績がCの人ほど、閲覧していないのです。問題を取り違えたり、授業で説明したその時代のポイントなどが、全くわかっていないレポートには、Cをつけました。(本来ならDですが。)その注意点をしっかり説明した最終授業を、聞いていないのです。振り返って見ないと、進歩はありません。どうぞ今後は、注意してください。閲覧記録を残すだけでなく、中身をしっかりと聞く習慣をつけてください。さらにそこから、自分で様々な作品に接して確かめる。後期の「イギリス文学史b」では、ぜひ実行してください。お願いします。</p> |
| 英語学概論 a | 猪熊 作巳 | <p>オンデマンド形式で進めましたが、難度の高い内容に対して、繰り返し動画を視聴するなど、前向きに取り組んでくれた学生が多数見られたことを喜ばしく思います。この授業形態の新しい可能性を示したかもしれません。</p> |
| アメリカ文学・文化演習 a | 稲垣 伸一 | <p>履修者の皆さんがとても熱心に授業を受けていたという印象を持っています。奴隷体験記をただ奴隷制が「ひどい」という感想だけで終わるのではなく、多様なアプローチを知ってもらえればこの授業は成功です。アンケートのコメントでそのことを書いてくださった学生が複数いました。</p> |
| プレセミナー | 猪熊 作巳 | <p>遠隔授業への移行に伴い、データ収集やPC操作など、かなり実技的側面の強い形式で進めました。授業の手法、内容ともに不慣れな中で戸惑った学生もいましたが、総じてよかったです。ありがとうございます。</p> |
| プレセミナー | 佐々木 真理 | <p>本年度はキャンパス閉鎖の中でのスタートとなり、私の方でもZoomを使用した授業やコンテンツの配信は初めてのことでしたので、最初は本当に試行錯誤でしたが、学生の皆さんが大変意欲的に取り組んでくださったおかげで、なんとか乗り切ることができました。期末のレポートは、皆さんそれぞれ力作で、この科目の目的を達成することができたのではないかと思います。</p> |
| プレセミナー | 土屋 結城 | <p>「実践入門セミナー」「英文入門セミナー」を受け、アカデミック・スキルの更なる学習を進め、4年生の「卒論セミナーa、b」につなげることを目的としている授業である。オンライン授業となったが、当初の目的通り授業を進めた。アンケートの回答数があまり多くなかったが、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「といった項目で4.55~4.91の評価だった。今後の課題としては、オンライン授業における双方向性の確保が挙げられる。</p> |
| プレセミナー | 村上 まどか | <p>文学志向の学生さんも、よくついてきてくれました。「プレセミナー」を、分野を自分で選んで履修できたらいいとは私も思いますが、言語学系でない人でも、英語を正確に読み、書式を整えた文章を書く練習は出来ただろうと思われま。オンライン授業のやりにくい科目ではありませんが、なんとか目的は達せられたでしょうか。「レポートの出し方をきちんと欲しい」は、細目の通知が遅かったこととしか思えませんが、字数とメ切は開始当初から通知してあり、細目もメ切10日前にはコースニュースに出したはず。けれども授業内通知が1週間前では確かに遅いので、この点は改めます。</p> |
| プレセミナー | 深瀬 有希子 | <p>アンケートの回答をありがとうございました。みなさんのご協力のおかげで、学習内容としては順調に進めることができました。一人で課題レポートを書くという作業もご苦労されたかと思いますが、充実したものが出来上がっており、皆さんの可能性を確認できたことは大きな喜びでした。近く、皆さんにお会いできることを心待ちにしています。</p> |

[2020（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|---------------|--------|--|
| 卒論セミナー a | 深瀬 有希子 | アンケートの回答をありがとうございました。就職活動などもあるなか、zoomゼミに真摯に参加くださり、本当にありがとうございました。みなさんの研究発表から私自身も学ぶこともありました。卒論は順調に進んでいますので自信をもって後期に臨んでください。大いに期待しています。 |
| 英語学演習 a | 村上 まどか | 書かれた意見はおおむね好評ですし、言語学をやりながら英文読解力も付いたならよかったですと思います。「リモート授業」は、分からないところ、聞き逃したところをその場ですぐに「友だち」に聞けないところが不便というコメントがありましたが、そういう場合、マイクやチャットで出てきて教員に遠慮なく質問してくださいね。 |
| 卒論セミナー a | 志渡岡 理恵 | オンデマンドとzoom双方向を組み合わせて授業を行った。回答率は半分弱ではあったものの、満足度4.86など高い評価で嬉しい。受講生は、大学図書館が自由に使えない状況の中、インターネットや地元図書館などを利用して、卒業論文の準備に真摯に取り組んでいた。発表にも、コメントにも、工夫しようとする姿勢が表れていた。 |
| アメリカ文学史 b | 佐々木 真理 | キャンパス閉鎖の中での授業開始となり、私の方でも初めてのオンライン授業ということで、なかなかうまく動画を録画できなかったり、課題を出しすぎたり、と試行錯誤でしたが、最後まで学生の皆さんが意欲的に取り組んでくださったので本当にうれしく思いました。 |
| イギリス文学・文化講義 a | 大関 啓子 | アンケートに半数の18名の方が答えて下さって、ありがとうございます。緊急事態で、十分な準備をする間もなく、できるだけ努力はしたつもりですが、それぞれの方の感想にその不十分な点が、表れていると感じました。まず、見た方がよいと勧めた作品は、1点のみでしたが、いろいろ見つけた人は、費用がかさんでしまった。（教室で対面授業ならその1点についても、費用は掛からないはずですね。）また出席に関しては、それぞれの問い合わせには、すべて答えましたが、manabaの閲覧記録が学生側からは見られないため、不安に感じた人がいた。（後期はresponだけで、取ろうと思います。）よくわからなかったというのは、様々な時代・国々・ジャンルにわたるテーマなので、対面授業であっても、半年15回では、つかみきれないとよく言われました。ただその範囲を狭めないところが、この講義の特色で、それがよいという受講者も、今まで多くいて、その声に支えられて、続けてきましたが、今年度が最終となりました。皆さんのレポートを読むと、それぞれの取り組み方が、分かります。どうぞ狭くならないでください。大学の勉強は、いかようにも範囲を広げ、掘り下げ、時代をとらえられることにあります。狭くならないでください。 |
| 卒論セミナー a | 猪熊 作巳 | 制約の強い状況の中で卒論研究を立ち上げるのは大変だったと思いますが、どの学生も真摯に取り組んでくれています。 |
| 卒論セミナー a | 土屋 結城 | 大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業である。アンケートの回答数は多くなかったが、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.57/4.86の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今後の課題としては、オンライン授業での双方向性の確保が挙げられる。 |
| アメリカの文化と社会 | 深瀬 有希子 | アンケートへの回答を誠にありがとうございました。皆さん毎回、真摯に参加（動画の視聴、クイズへの解答）をしてくださり、それに励まされておりました。至らぬ点もあったかと思いますが、ご指摘いただいた点など、今後に向けて改善していきたいと思えます。英文科で学ぶ楽しみ、英語原典に触れていく機会を、今後もみなさんと共有していきたいと思っています。X |
| 女性と言語文化 | 村上 まどか | 回答した人はほとんどがコメントをくれていて、ありがたく拝読しました。否定的なものに答えると、「画面の共有が下手」→はいすみませんでした、練習を重ねます。「チャットが授業の妨げと言うのが意味不明」→遅刻しましたのようなプライベートチャットは無用という意味です。遅刻はレスポンス入力時間で分かるし、30分以上の遅刻は欠席ですから。それに、1人から受けた質問には全員の役に立つように私は返信するのでプライベートはやめてほしい、不器用な私はそれを「全員」に切り替えることさえ、授業中はあせってしまうのです。「今～という質問がチャットで来ましたが」と口で答えてもいいですね。でもそれでも全員向けに質問して欲しいですが。最後に「強制ではないものの、地方にいるかみしらず、定期券もなく、この感染状況下でレポートのため図書館をすすめるには驚いた」→はい判断は本人や家族でお願いします。私は制限を設けて開館しているという情報を伝えました。（中古本のネット通販や、文献の無料ダウンロードもすすめたはずです。） |

[2020（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|-----------------|-------|--|
| イギリス文学・文化演習 c | 土屋 結城 | <p>ジョージ・バーナード・ショーの『ピグマリオン』を読み、作品の読解並びに19世紀イギリス社会についての理解を深めることを目的とした授業である。オンライン授業となったが、当初の目的通り授業を行った。アンケートの回答数は多くなかったが、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.556~4.75の評価を得た。また学修時間も比較的確保されていたようである。概ね、授業の内容や目的に関する理解は得られたと思う。今後の課題としては、オンライン授業での双方向性の確保が挙げられる。</p> |
| Basic Reading a | 富塚 亮平 | <p>授業スピードやわかりやすさについては一定の評価を得られた一方、声の聞き取りやすさについては批判も頂戴しました。また、オンラインにおける授業項目ごとの実施方法の振り分け方や、英語小説への向き合い方などについて、多くの貴重なご意見をいただきました。</p> <p>授業をする側にとっても受ける側にとっても、未知数な要素の極めて多い授業ではありましたが、少しでも今後の英語や文学との良き関係のきっかけとなることができたのなら幸いです。</p> |
| Basic Reading a | 土屋 結城 | <p>英語でのリーディング能力を中心に全体的なスキルアップを目的とした授業であり、授業アンケートでは「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.15~4.35の評価を得た。授業の目的、内容に関して一定の理解を得られたと思う。課題としては、オンライン授業での双方向性の確保が挙げられる。</p> |
| イギリス文学・文化演習 g | 西野 方子 | <p>小説をどう読むのかを試行錯誤しながら実践するという授業で、難しいなと感じることもある授業だったと思います。オンデマンド授業という初めての試みの中、みなさんがたくさん意見を出してくれたので成立した授業でした。半年間ありがとうございました。</p> |
| イギリス文学・文化演習 e | 西野 方子 | <p>題材がなかなか難しい小説であり、かなり挑戦的な授業だったと思います。受講生から様々なコメントをもらえたことで最後まで読み切ることができました。オンデマンド授業で双方向なコミュニケーションをとる方法について、これからも考えていきたいと思っています。</p> |
| アメリカ文学・文化講義 c | 難波 雅紀 | <p>[コメント]</p> <p>①アイデンティティという言葉が何を意味しているのか、その理解を十分持つことがまず重要です。</p> <p>②簡単に言えば、「自分が何ものであるかを証明するもの」となるのですが、それはたった一つであるとは限りません。ひとりの人間は様々な側面を持っていますから、側面の数だけアイデンティティがあるとと言っても間違いではありません。</p> <p>③注目して欲しいのは、そうしたアイデンティティには、「変更不可能なアイデンティティ」と「変更可能なアイデンティティ」があって、変更可能なアイデンティティは、自分の選択する意思によって決まってくる。また、アイデンティティには階層があって、あるアイデンティティが別のアイデンティティの部分であったりすることでした。</p> <p>④アイデンティティ間の関係性や階層構造、アイデンティティと選択の意思との関連などが見えてくると、自分にとって極めて本質的なものが何なのか分かってきます。</p> <p>[まとめ]</p> <p>人間にとって本質的なアイデンティティとは何か。それは、多分に精神的であり、イデオロギー的であったりします。そうした観点から自分とは何かに関する考察を深めることが、この授業で一貫して皆さんに求めてきた知的、精神的営為でした。本当の自分は自分がいちばん知らない。だからこそ、自分とは何かを意識的かつ主体的に探求する姿勢は、生きていく上で極めて重要なのだと思います。</p> <p>以上のような理解がどこまで皆さんひとりひとりに定着しているのかを確認するために、学期末には皆さん自身のアイデンティティについて、レポートを書いてもらいました。成績評価は13回の授業レポートと学期末レポートで総合評価しました。成績評価の方法は以下のとおりです。</p> <p>【成績評価の方法】</p> <p>①期末レポートの点数：素点（100点満点）×50% +A=100点 A=85点 +B=80点 B=75点 +C=70点 C=65点 -C=60点 D=50~0点 *④成績評価における評点と得点の関係とは異なる。</p> |

[2020（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|---------------------|--------|--|
| | | <p>[評価の内訳]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカン・アイデンティティの具体例 2. 自分自身のアイデンティティの具体例 3. 1と2の比較 4. 比較による質的な相違または類似 5. 引用文献および参考文献の明示 <p>○評価ルール④：上記の1~5がすべて揃ってA ○評価ルール⑤：上記の1~5が一つ欠けるにつけ1段階マイナス評価（二つ欠ければ2段階マイナス） ○評価ルール⑥：その上で、記述内容の精粗により5点を加点</p> <p>②授業レポートの点数：13回（各回100点満点）の平均点×50% +A=100点 A=85点 B=75点 C=65点 D=50点</p> <p>[評価の内訳]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に内容に関する理解 2. 課題に対する自分の主張 3. 主張の論理性 <p>○評価ルール④：上記の1~3がすべて揃ってA ○評価ルール⑤：上記の1~3が一つ欠けるにつけ1段階マイナス評価 ○評価ルール⑥：記述の精粗により加点または減点</p> <p>③得点：①（50点満点）+②（50点満点）=100点（満点）</p> <p>④成績評価 +A：100~91点 A：90~80点 B：79~70点 C：69~60点 D：50~0点</p> |
| Intensive Reading a | 諏訪 友亮 | <p>Intensive Reading 受講生の皆さんへ</p> <p>前期お疲れさまでした。 コロナの混乱のなか授業がスタートし、なかなか事態を飲み込むことができない状況が続いたと思います。 それでも授業へ参加してくれ、まずは御礼申し上げます。 また、制限のある授業で申し訳なく思います。</p> <p>自分でも評価は厳しめかなと自覚しているのですが、このクラスは大変素晴らしいと感じたということにつきます。 優秀なプレゼンテーションの例を紹介するつもりだったものの、ほとんどの人が優秀例と言って良いくらいの出来栄でした。 日本について日本人ではない人が英語で書いた文章を通じて、日本をより俯瞰的な場所から見られるようになってくれれば良いという気持ちでテキストを選んだわけですが、興味を持って取り組んでくれた人が多いようで嬉しいです。</p> <p>評価はシラバス通り、毎回の小テスト、プレゼンテーションで主につけています。 多くの人がA以上の評定を得ていました。</p> <p>まだまだつづくコロナの時代にあって、学びを止めない皆さんの姿勢を心から讃えたいです。 後期もその姿勢で臨んでくれればと願います。</p> <p>諏訪</p> |
| 卒論セミナー a | 大関 啓子 | <p>最後の授業でお願いしたのですが、回答が2名のみで残念です。 双方向授業の工夫については、2名の意見が分かれています、その人により、捉え方が異なるのでしょうか。急のこととはいえ、お互いに十分な授業準備もできず、対面もままならず、必要な資料を研究室で提供することもできず、できるだけの努力はしたつもりですが、個人指導の面で、十分とは言えませんでした。 そのような中で、全員が、締め切りまでに、必要なレポートを出せたことは良かった。あとは夏休み中の指示に、各人がどれだけ応えてくれるか、後期に期待します。</p> |
| 卒論セミナー a | 佐々木 真理 | <p>キャンパス閉鎖の中での授業開始、ということで、本来ならば対面で指導したいところを、GoogleMeetやZoomによる指導となり、学生の皆さんも不安だったことと思います。資料もなかなか実際に見ることができない中で、なんとかアウトラインの作成までこぎつけたのは皆さんの努力の賜物です。後期もがんばっていきましょう。</p> |

[2020（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|------------|--------|---|
| 卒論セミナー a | 難波 雅紀 | <p>「セミナーa」では、卒業論文の作成に向けて、①テーマの設定、②題材の選定、③背景的情報の収集に主に取り組んできました。</p> <p>①については、「テーマとは何か」という根本的な問題に対する理解がなかなか得られなかったようです。特に、テーマと題材との関係性がいまひとつ分からず、なかなかテーマを設定できない場合もありました。</p> <p>②に関しては、ランダムに題材を抽出しても、内容的に見た場合にそれらが関連していかないことが多いので、その中からテーマに即したものを選別していくのに時間がかかりました。でも、その過程が必要不可欠なことは理解できたようです。</p> <p>③背景的情報は、テーマを論じていくために必要な情報を選別することで得られるので、①と②に深く関連するものです。情報収集の結果は後期のセミナーの場で個々に確認していく予定です。</p> <p>以上</p> |
| 英語学演習 e | 野村 美由紀 | <p>初めての遠隔授業で、Zoomによる授業を実施しましたが、果たして授業として成立するのか、とても不安を抱えたままの授業でしたが、アンケート結果からは、概ね授業内容の理解はできたようで安心しました。機器を通しての音声のやりとりでしたが、聞き取りにも支障がなかったようで良かったです。履修者の皆さんがレジュメ作成や発表準備など事前学習を熱心に取り組んでくれたおかげで、成り立った授業でした。</p> |
| 女性と英語圏文学 a | 志渡岡 理恵 | <p>すべてオンデマンドで行った。半数弱の受講生が回答してくれて、満足度は4.36だった。資料が多すぎたかなと心配していたが、資料が豊富でよかったというコメントが複数寄せられていたので安心した。講義でオンデマンドだったので、受講生同士のやり取りが何かできればよかったと思う。受講生は、毎回の課題に真摯に取り組んでいて、成長していく様子が嬉しかった。</p> |